

アナリスパターン第6章
在庫管理と会計(前半)
要約バージョン

小島一郎
上手 裕

まえがき

会計および在庫管理の背後にある基本思想は、金と「もの」のさまざまな入れ物があること、そして金と「もの」がそれらの間でどう移動するか記録すべきだということである。

目次

- 6. 1 勘定
- 6. 2 トランザクション
- 6. 3 要約勘定
- 6. 4 メモ勘定
- 6. 5 転記ルール

6.1 勘定

勘定は、品物やお金と行ったものの値を保持している。その値は、
エントリーによってのみの値の追加または削除(残高の更新)、勘定に
対するすべての変更履歴を提供する。勘定を用いて、ある値の変更
履歴を記録する場合、記載内容が失われないことを保証しなければ
ならない。

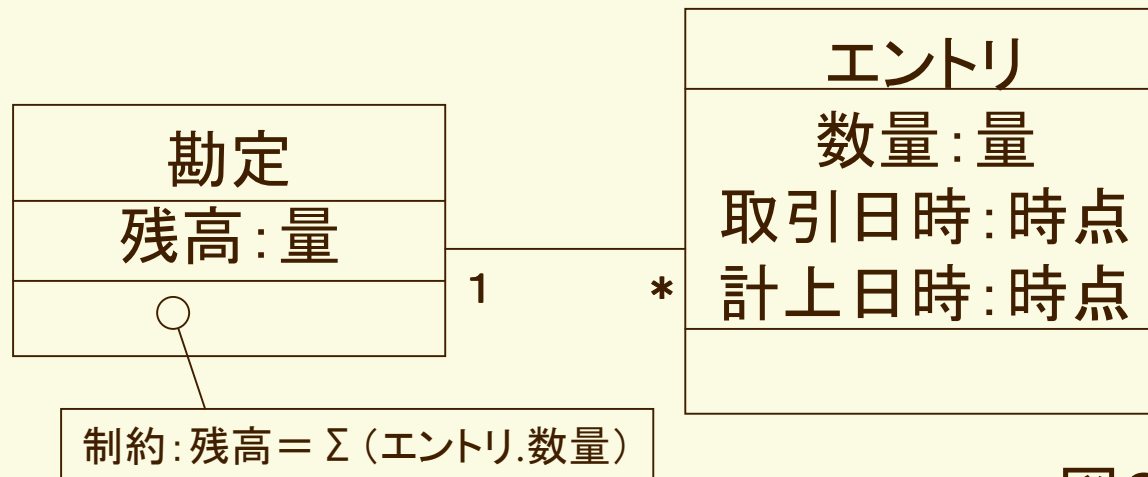
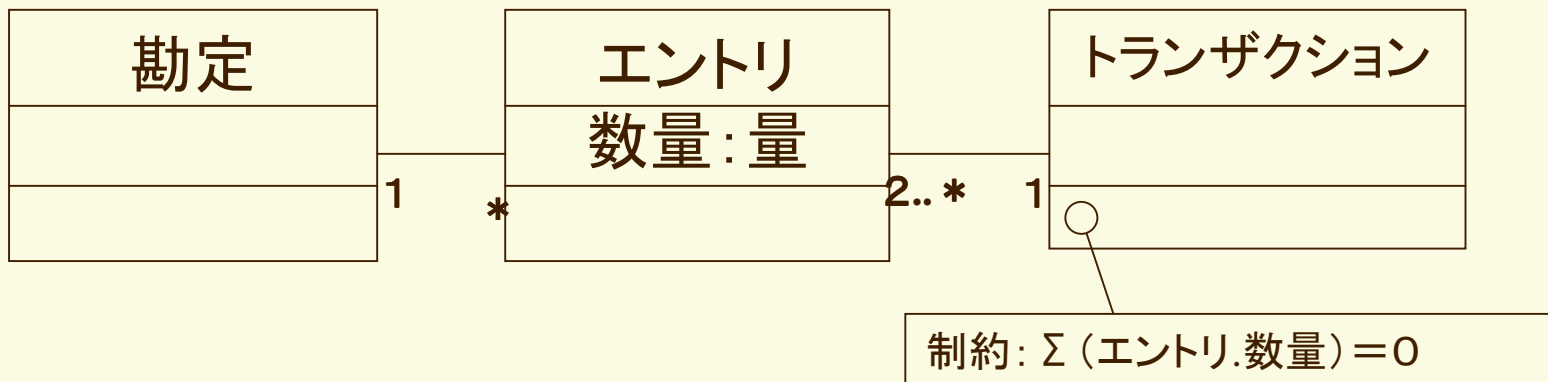


図6.1

6.2 トランザクション

エントリの記載内容が多くなると、出入りを記録するだけでは不十分である。エントリがどこから来てどこに行くかも併せて記録するために「トランザクション」を設ける。トランザクションは、ある勘定から払出と他への繰入を明示することでこれを促す。



6.3 要約勘定

要約勘定は、勘定のもつほとんどのレポート機能を勘定のグループにも当てはめたものである。

要約勘定は、要約と明細の2つの勘定で構成される。これは明細が葉となる階層構造になっている。要約勘定のエンタリは、再帰的に、その構成要素の対象エンタリから導出される。

構成要素間の関係が階層的であることは、明記されなければならない事に注意する。

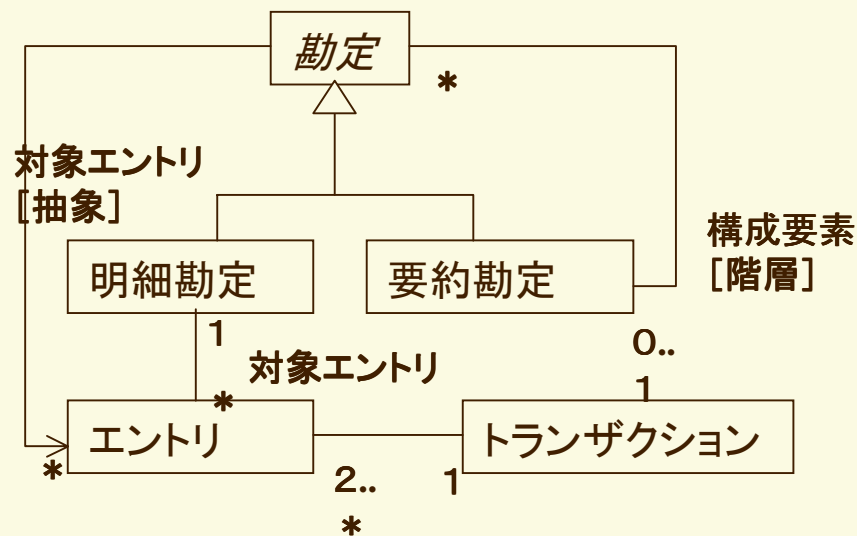


図6.5

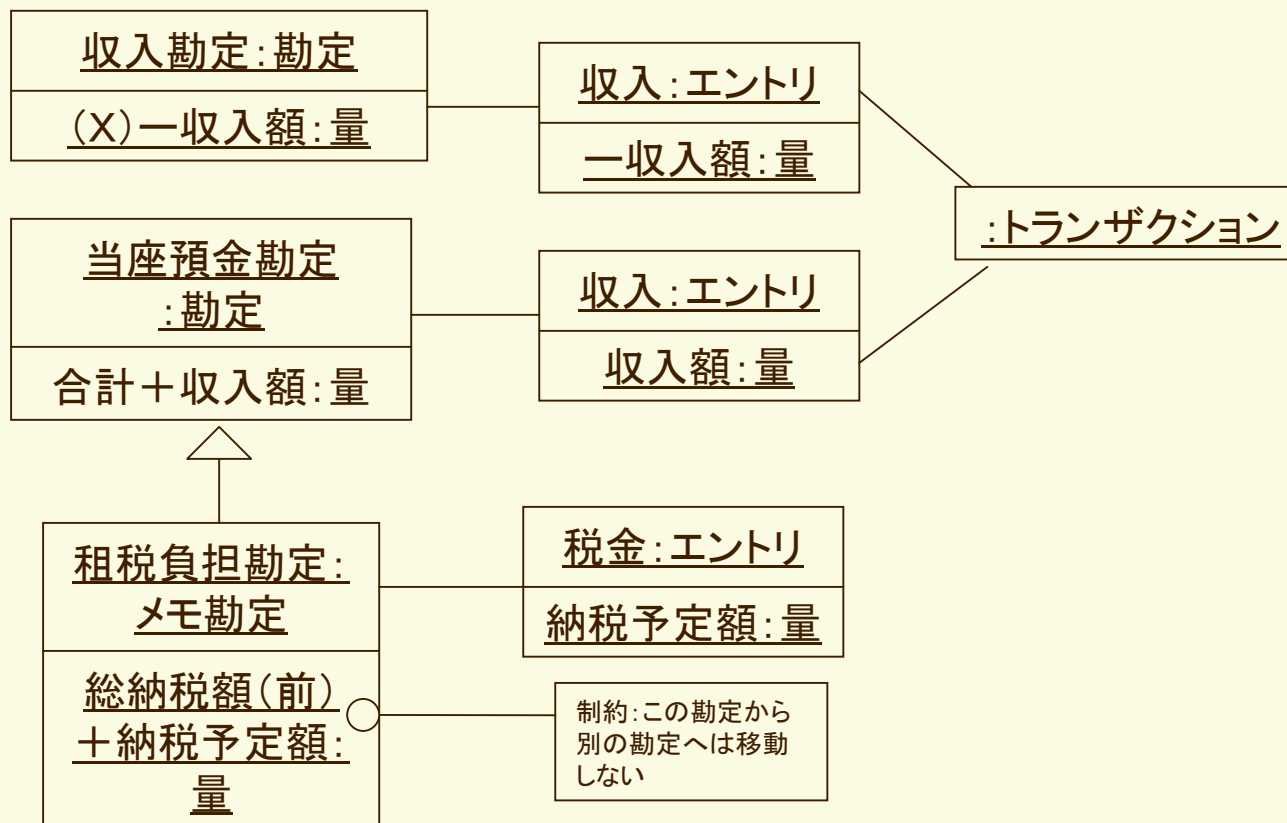
6. 4メモ勘定

メモ勘定：

実際に勘定間で金が動くわけではないが、メモの役割を持つ勘定。

6.4 メモ勘定

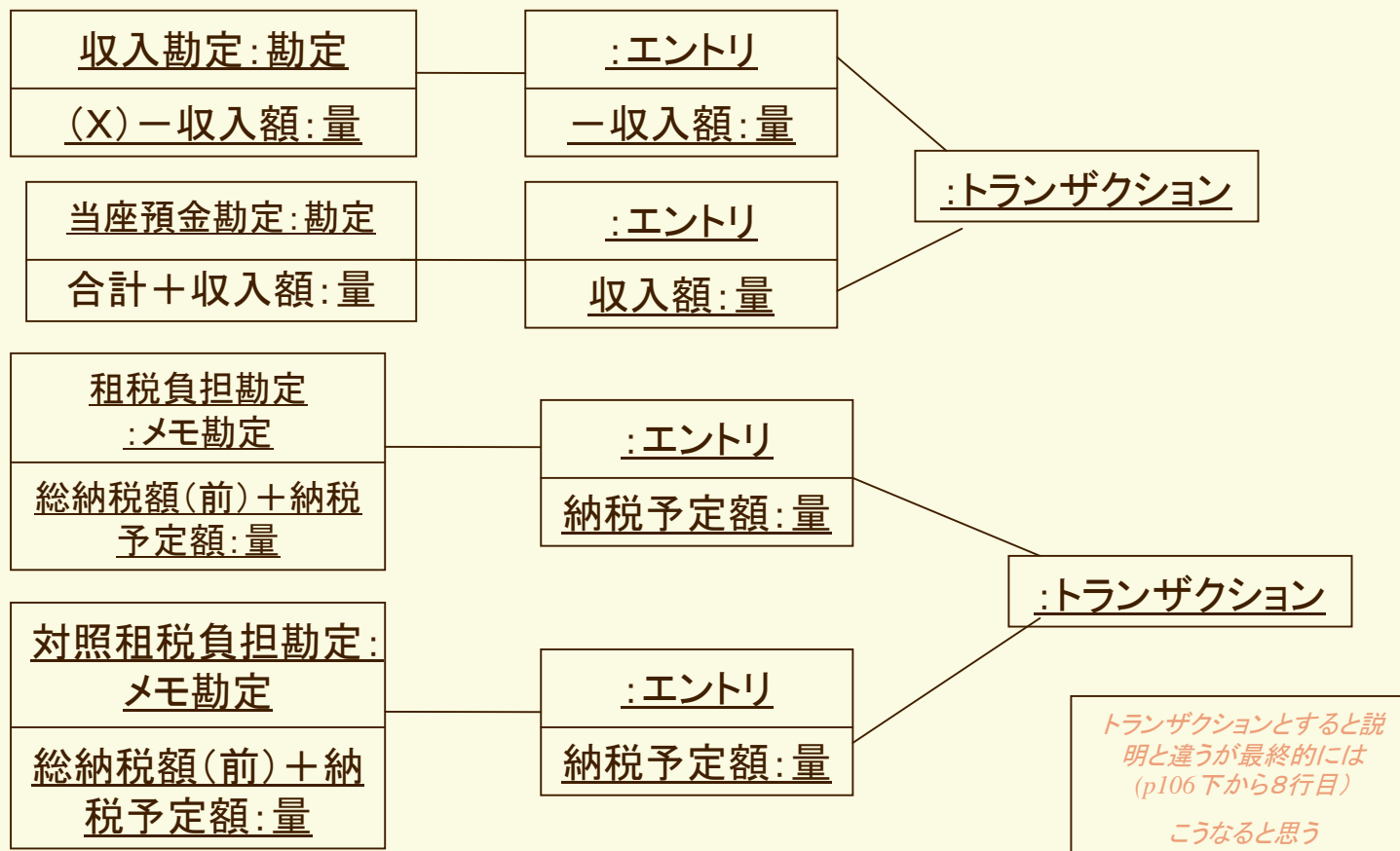
筆者の税金の例1.



6.4 メモ勘定

筆者の税金の例2

メモ勘定にもトランザクションを使用した場合(6.5.2を取り入れた図)



6.5 転記ルール

転記ルール:

勘定には、金額や数量が勘定間をどのように移動するかを統制する固定的なルールを含めることができる。

図6.7では、転記ルールは、ある勘定をトリガとして指定することによって記述される。そのトリガとする勘定に対するどんな記載によっても、新たなエントリが作成される。

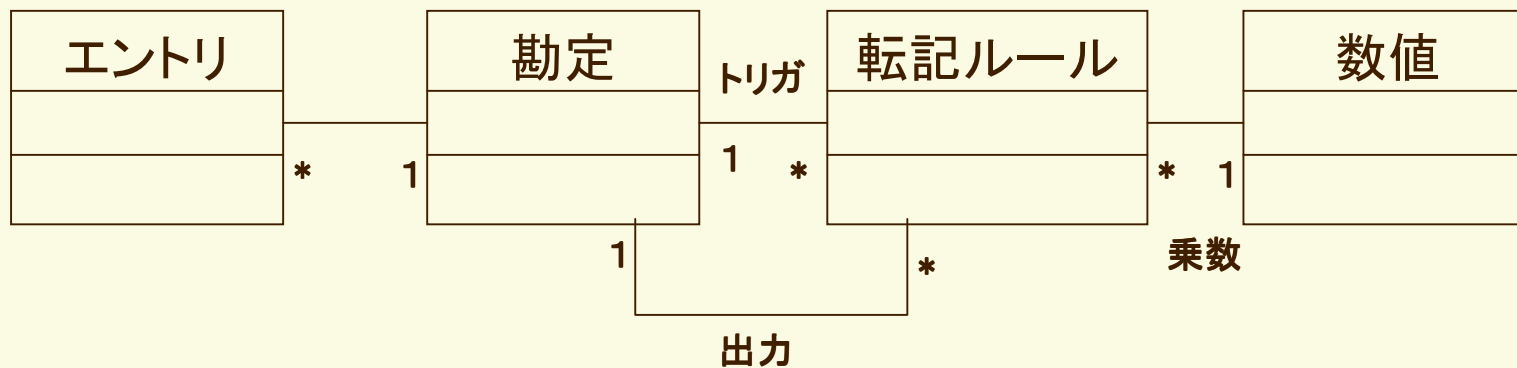


図6.7

6.5.2 転記ルール(トランザクションを使わない方法)

すべてのエントリは、最初のエントリと転記ルールによって記述できるので、トランザクションを使わないことによるリスクは低減できる。

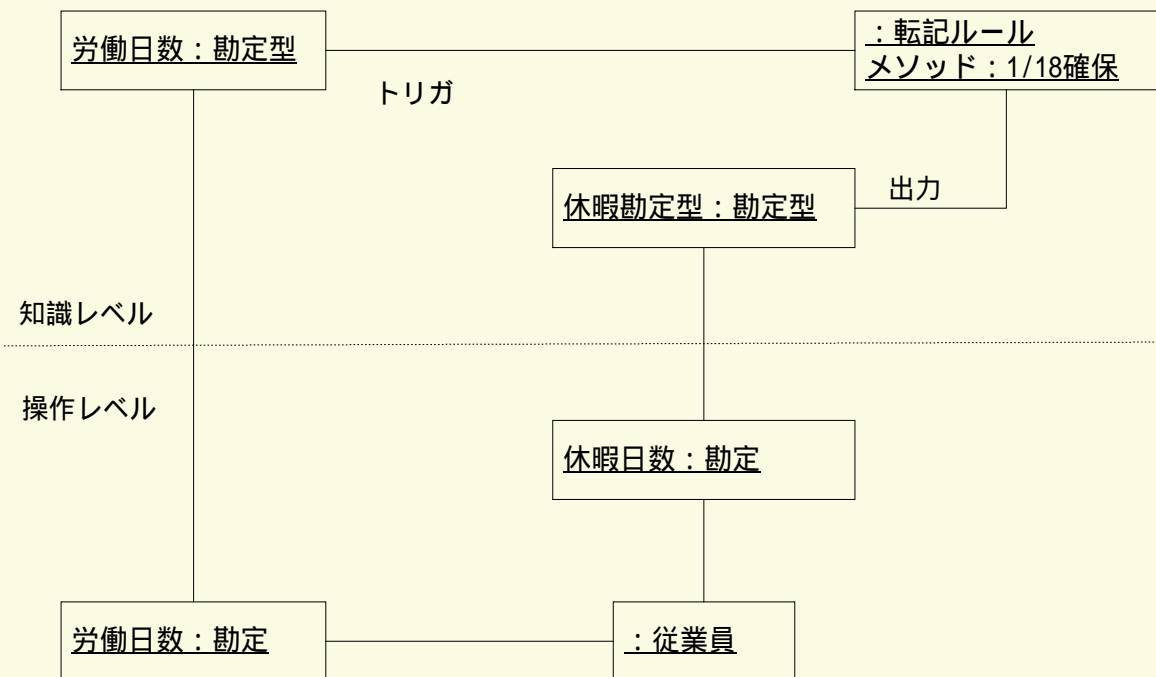
しかし...

転記ルールだけ(トランザクションを使わない)場合、
エントリごとの転記ルールが必要になり、エントリの合計が0になることを地道に確認する必要がありますが、

トランザクションを使う場合、
1つの転記ルールから必ず2つのエントリを作成し、エントリの合計を地道に確認する必要はありません。

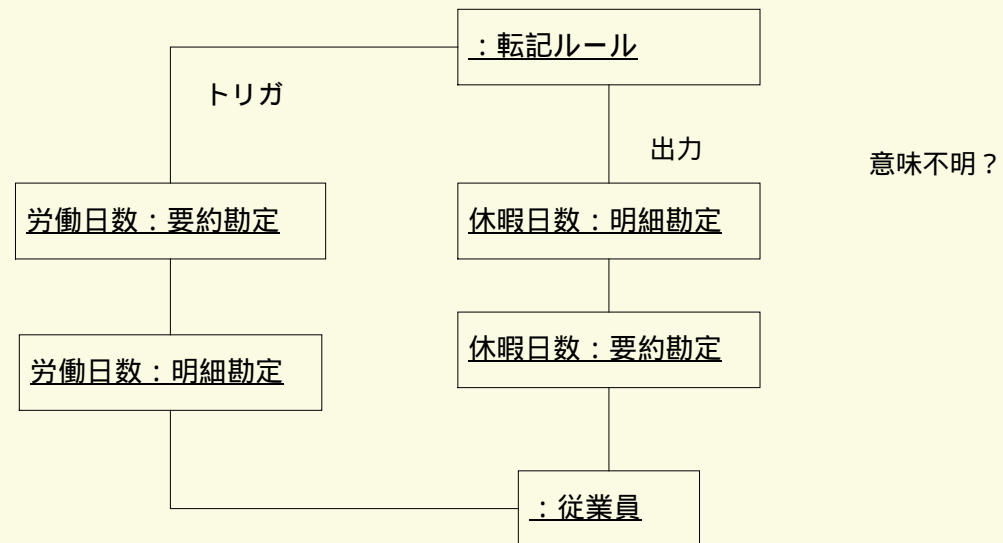
筆者は、概してトランザクションを使う場合を好む。

例題 P118 従業員は全員、18日間の労働のたびに1日の休暇を与えられる。これは労働日数勘定をトリガに、発生した休暇勘定型を出力に持つ転記ルールとして表現される。このメソッドは発生した休暇勘定の残高が労働日数の残高の1/18であることを保証する。従業員勘定がトリガされるたびにその勘定型をトリガの勘定型として使うように定義された転記ルールを探す。



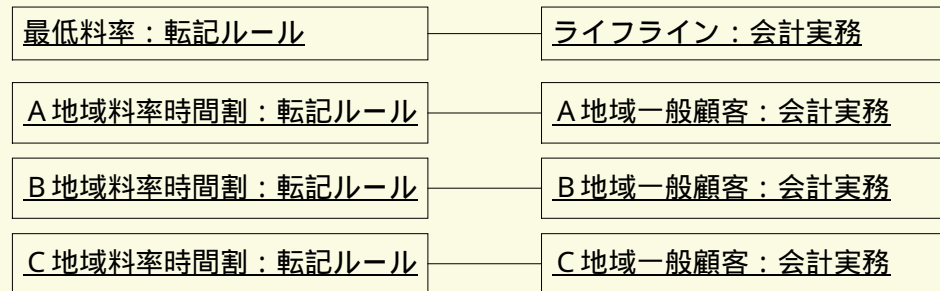
例題 P118

上の例では、労働日数と発生した休暇回数に対する要約勘定がある。この転記ルールは、上記の例と同じである。勘定型の転記ルールを調べる代わりにその要約勘定を調べる。



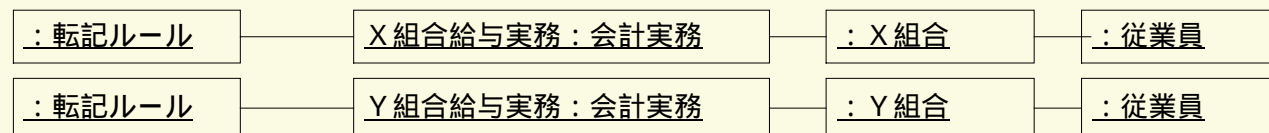
例題 P122

電力会社は、住宅顧客を一般とライフラインに類別している。ライフラインカテゴリは州が最低料金で課金すべきとした顧客である。一般顧客は住んでいる地域によって3つの料率時間割に区別される。このような分類は、4つの会計実務で扱われる。すなわち、1つのライフラインと、3つの地域のそれである。

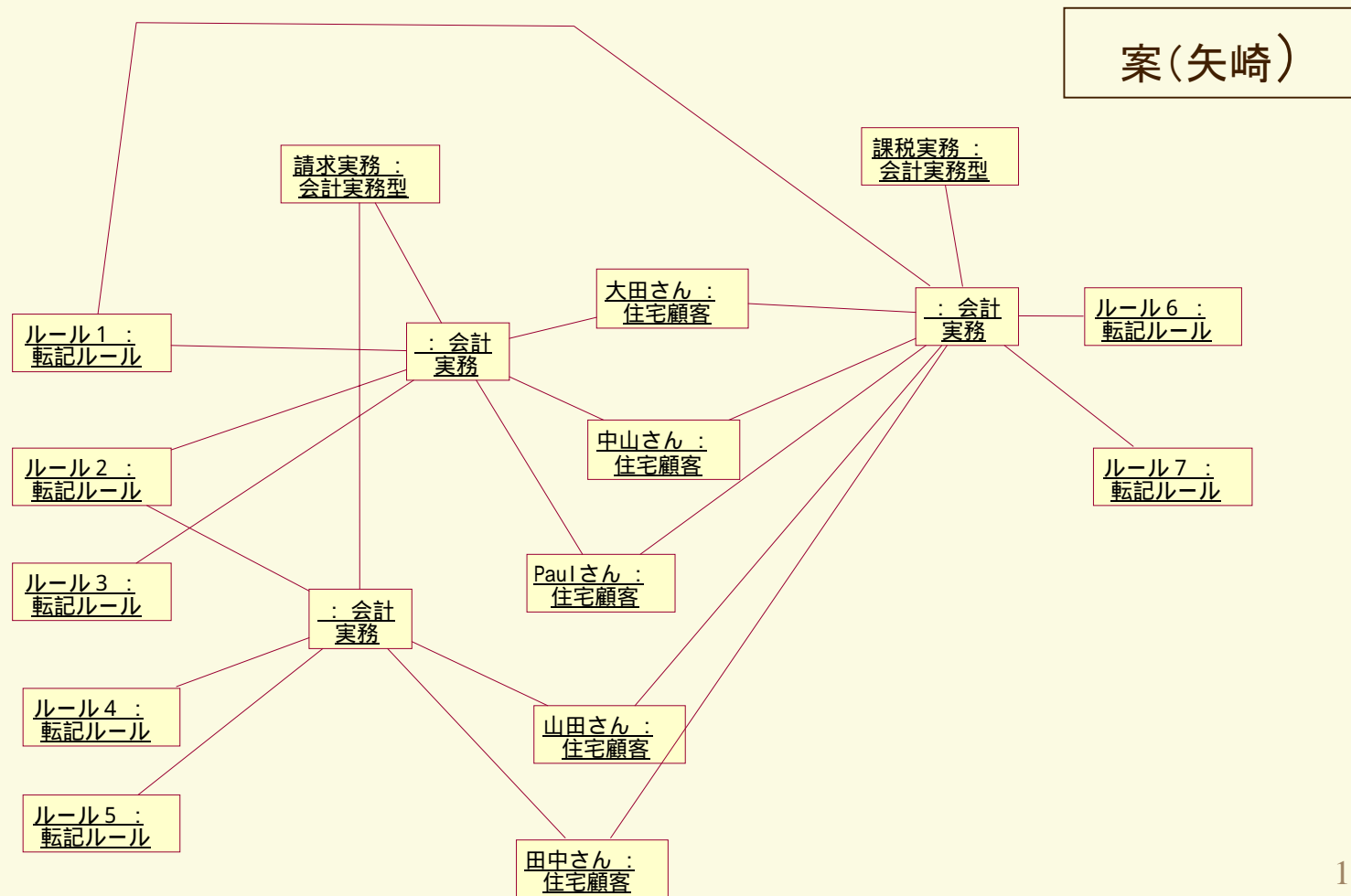


ACM社は複数の組合の労働者を抱え、各組合と異なる賃金協定を結んでいる。ACM社は、各組合ごとに異なる給与実務を持っている。

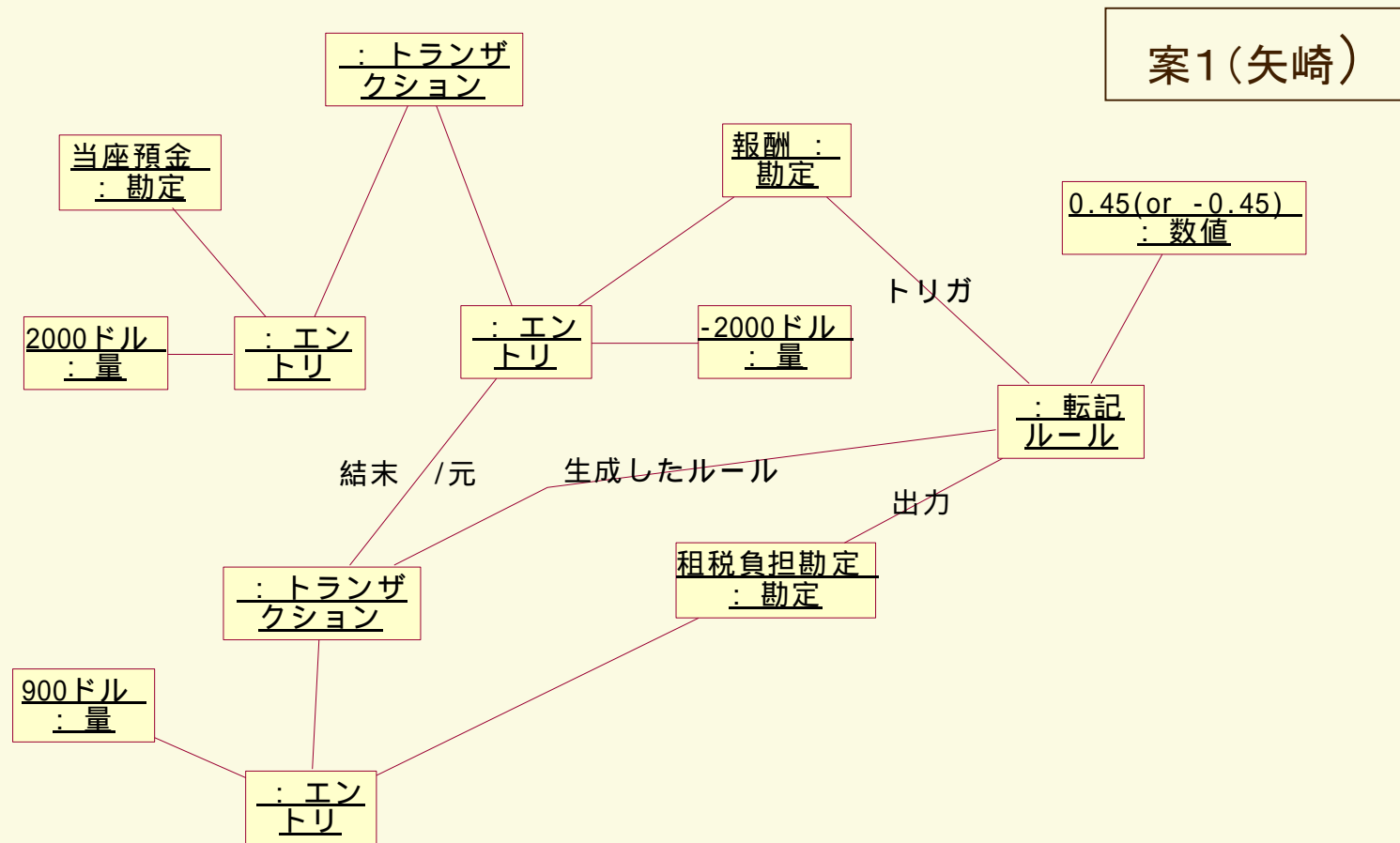
ACM社では、給与実務は労働者が属している組合に基づいて割り当てられる。



例題 P123 公共事業(utility)は、住宅顧客(residential customer)への請求処理に関していくつか実務をもっているが、全ての顧客は同じ方法で課税される。これは請求実務と課税実務を別々に持つことによって扱える。顧客は別々の請求実務を持つが課税実務は同じである

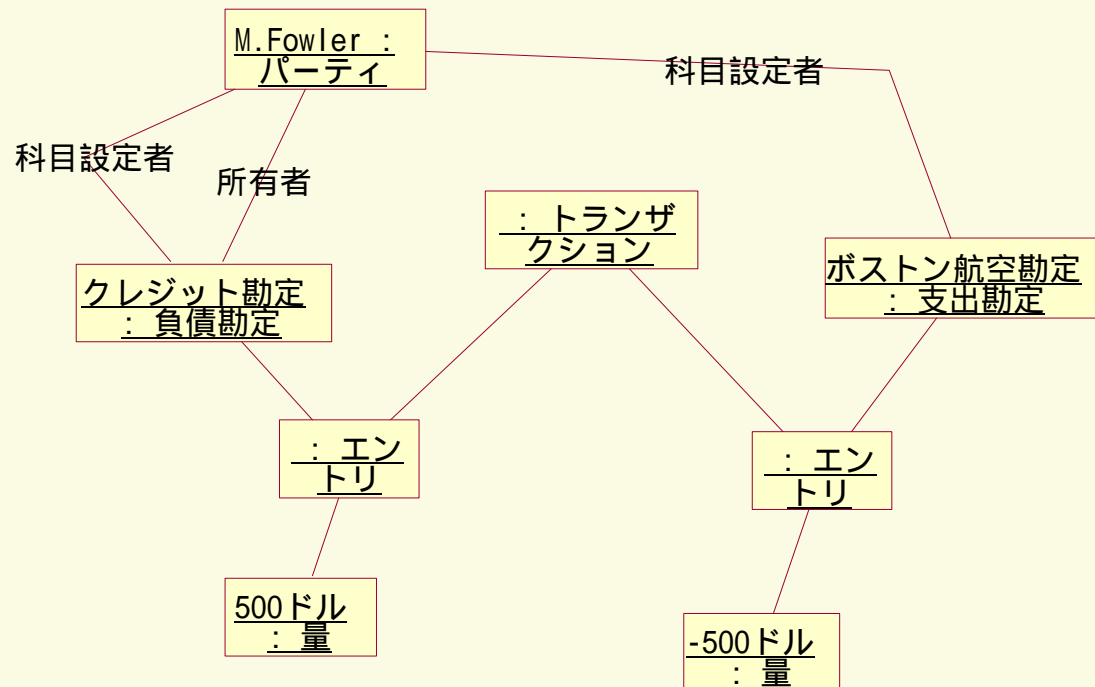


例題 P124 筆者は、ACM社のある仕事で2,000ドルを受け取った。筆者はそれを報酬から当座預金へのトランザクションとして記録した。筆者の転記ルールは、租税負担勘定への別のトランザクションを生成した。このトランザクションを生成したのは45%の転記ルールであり、このトランザクションの元は報酬勘定からの払出であった



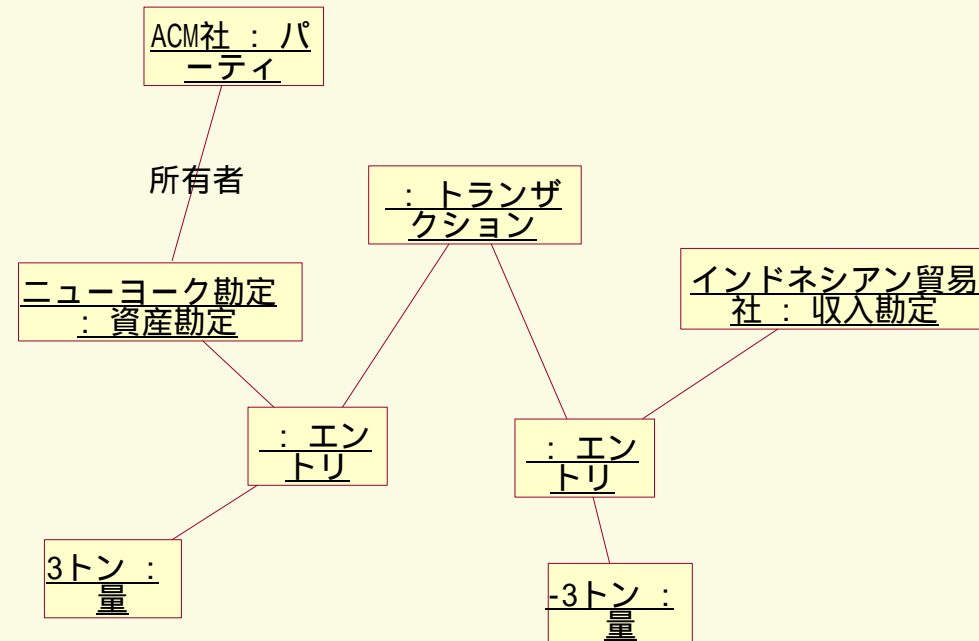
例題 P125 筆者は、ボストン航空からクレジットカードで航空券を買った。クレジット勘定は負債勘定であり、ボストン航空勘定は支出勘定である。両方とも、筆者が仕訳した。クレジットカード勘定の所有者は筆者である。

案1(矢崎)



例題 P125 ACM社はインドネシアコーヒ貿易社からジャワを3トン買う。
 ACM社にはインドネシアコーヒ貿易社に対する収入勘定があり、同社から
 ACM社ニューヨーク勘定へのジャワ3トンの移送を記録する。そのニューヨ
 ーク勘定はACM社が所有する資産勘定である。

案1(矢崎)



何が問題なのか？

複式簿記では、

- ・P/Lの収入－支出＝利益 と B/Sの資産－負債＝利益 が同じになることを
系統的に保証している
- ・従って仕訳の書き方をするとトランザクションは、エントリーの合計がゼロにならない

B/S バランスシート
(貸借対照表)
決算時のストック表示

損益計算書
(Income Statement)
P/L Profit and Loss
決算期間のフロー表示

資産	負債	<--同じ金額-->	支出	収入
	利益		利益	

仕訳の左(貸方)と右(借方)の組み合わせの例

資産+ : 負債+ 当座預金+ : 借入金+ --> エントリーが +、+になる

資産+ : 収入+ 当座預金+ : 売上+

資産+ : 支出-

資産- : 負債-

資産- : 収入-

資産- : 支出+

負債+ : 支出+ . . .

エントリーは +、- で合計ゼロの制約とどう整合させるのか？